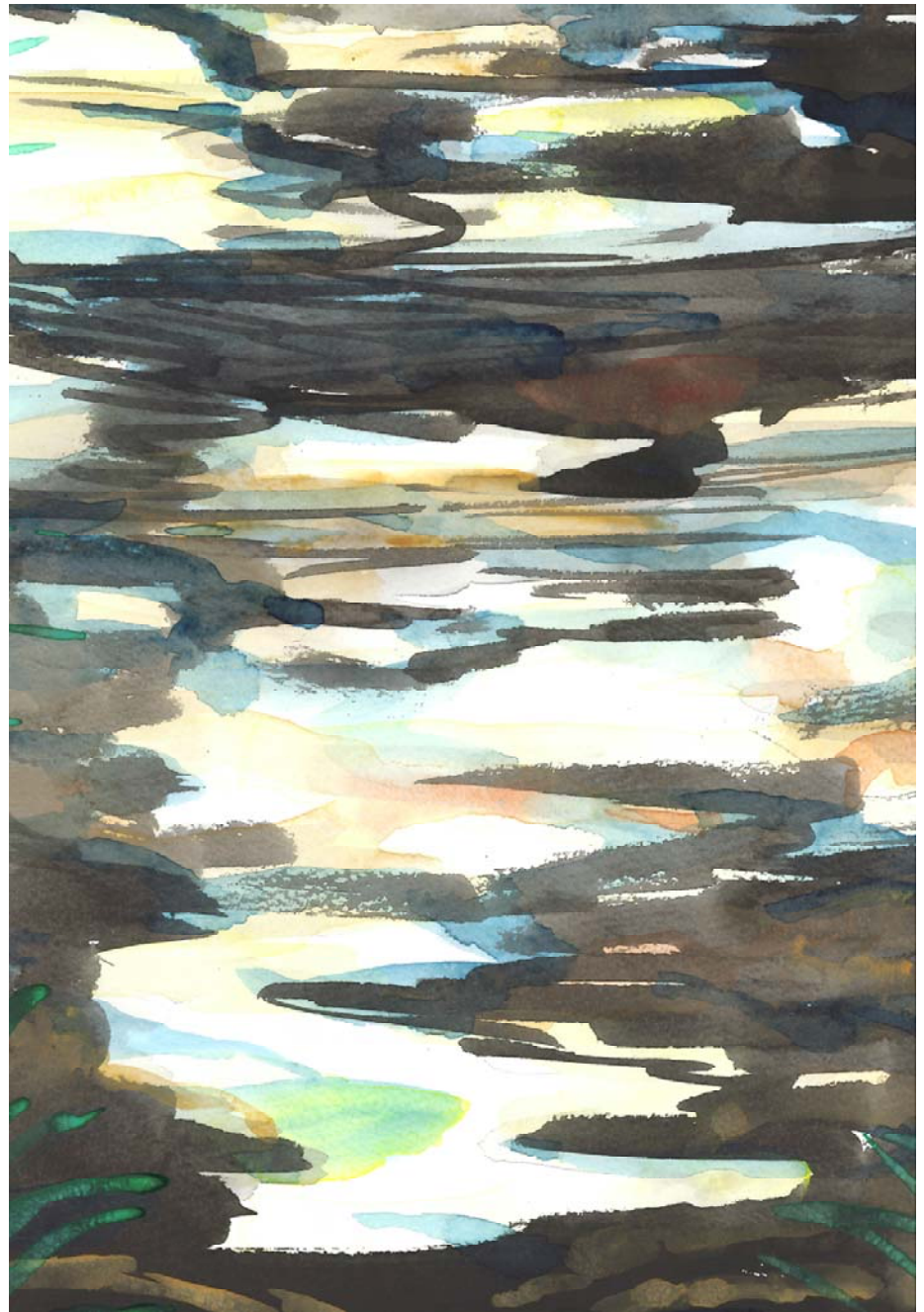


Total Rehabilitation Research

Printed 2016.2.28 ISSN2189-4957

Published by Asian Society of Human Services

*F*ebuary 2016
VOL. 3



Kanoko CHINEN

[Drawing]

ORIGINAL ARTICLE

QOL の観点に基づいた 障害者雇用促進制度・政策評価尺度 (QOL-EPAT)の信頼性・妥当性の検証 -日本の専門家調査から-

権 偕珍¹⁾²⁾ 天久 慧子³⁾

- 1) 立命館大学大学院経済学研究科
2) 日本学術振興会特別研究員
3) 琉球大学大学院教育学研究科

<Key-words>

QOL, 障害者雇用促進評価指標・尺度, 信頼性, 妥当性

kkhhjj51@naver.com (権 偕珍)

Total Rehabilitation Research, 2016, 3:46-56. © 2016 Asian Society of Human Services

I. 問題と目的

近年、欧米諸国ではベンチマークやインディケータを政策評価指標として用いた新しい手法が導入されている。これらの手法は市民の生活の質(Quality of Life: 以下, QOL)を様々な角度から測り、数量化して政策の目標値、達成度を分かり易く提示するとともに政策意思決定に反映させるためのツールである(中西・土井, 2003)。例えばイギリスでは、経済的な豊かさをほぼ達成した今日、市民の QOL を向上させることが政府の義務であるとし、政策評価に QOL インディケータが用いられている(中西・土井ら, 2005)。このように、制度・政策を評価する際、当事者 QOL の観点を取り入れて客観的に評価することが重要視されるようになってきている。

しかし、日本では、制度・政策の設計や評価において QOL の観点や概念が用いられるのは少ない状況(韓, 2013)であり、特に、障害者に関わる尺度においては、障害者の心身機能を評価する尺度や活動と参加を測る尺度などは用いられているが、QOL の観点に基づいて障害者雇用促進制度・政策を測る尺度はほとんどない状況である。よって、日本の障害者雇用促進制度・政策を QOL の観点から評価できる尺度の開発が必要である。

そこで、権(2015)は日本における QOL の観点に基づいた障害者雇用促進制度・政策評価尺度(Employment Promotion System Assessment Tool for Persons with Disabilities from the Perspective of Quality of Life: 以下, QOL-EPAT)を開発した。QOL-EPAT は、主に QOL の観点から、障害者雇用促進制度・政策を評価する尺度である。QOL-EPAT は、QOL や雇

Received

December 16, 2015

Accepted

January 13, 2016

Published

February 28, 2016

用、制度・政策に関連する既存の尺度・指標、先行研究や関連法律・制度・政策を参考にして領域を設定し、項目の作成を行った。作成された QOL-EPAT は、日本において日韓の障害者雇用に関わる大学教員等の専門家や障害当事者、保護者等を対象とした意見調査(15名)を行い、内容的妥当性を検証した。QOL-EPAT は「雇用の安定性」、「心身の健康」、「生活の安定性」の3領域、12項目で構成されている(権, 2015)。

しかし、内容的妥当性の検証は、専門家の主観的な意見であるため、科学的な妥当性の検証は不十分である。また、QOL-EPAT の信頼性と構成概念妥当性は検証されていない。そこで、本研究では、日本で初めて開発された QOL の観点に基づいた障害者雇用促進制度・政策の評価尺度の信頼性及び妥当性を、調査データを用いて検証することを目的とする。

II. QOL-EPAT の概要

QOL-EPAT は、権(2015)が QOL の観点に基づいた障害者雇用促進制度・政策評価指標 (Employment Promotion System Indicator Tool for Persons with Disabilities from the Perspective of Quality of Life : 以下, QOL-EPAI)に基づいて開発した尺度である。QOL-EPAT は、QOL、雇用、制度・政策に関連する既存の尺度・指標、先行研究や関連法律・制度・政策を参考にして領域を設定し、項目を構成した。QOL の関連指標・尺度としては、WHOQOL、雇用の関連指標・尺度としては、ILO のディーセントワーク、制度・政策の関連指標・尺度としては OECD のソーシャル・コンサーンと社会政策の主要目標を用いて、QOL-EPAT(試案)を作成した。尺度開発の際には、各指標や尺度に含まれる概念を抽出し、QOL の観点に基づいて障害者雇用促進制度・政策の評価を行う上でふさわしいと思われる領域と項目を設定した。さらに、尺度の内容的妥当性の検証のため、2015年2月に専門家調査を行なった。QOL-EPAT(試案)の理論的背景や指標の作成方法についての説明資料を配布し、尺度の領域や各項目についての内容や言葉の表記が妥当であるかについての調査を行なった。調査対象者は、日本において日韓の障害者雇用に関わる大学教員等の専門家や障害当事者、保護者等の計15人であった。専門家の意見・助言を受け、QOL-EPAT(試案)の領域、項目の内容の修正・削除を行い内容的妥当性が確認された。QOL-EPAT は3領域、12項目で構成されている(表1)。

表1 QOL-EPATの項目と概要

	項目	概要(定義)
雇 用 の 安 定 性	雇用の機会	1. 障害者雇用促進に関する法律・制度の実施
		2. 多様な障害者雇用の形態を提供
		3. 雇入れに関する計画の作成
		4. 負担の調整及び規制制度の実施
		5. 奨励制度の実施
		6. 在宅就業障害者への支援
		7. 事業主に対する雇用指導の実施
		8. 公的専門支援機関の設置
	公平性の確保	1. 勤務条件(時間、休暇等)の配慮
		2. 人事・労務管理上、公平性の確保
		3. 差別解消に関する体制整備
	能力の向上	1. 職業リハビリテーションの計画
		2. 職業リハビリテーションの実施
	雇用関連諸機関との連携	1. 職業訓練機関との連携
2. 職業斡旋機関との連携		
3. 地域障害者雇用支援機関との連携		
支える人材の育成及び配置	1. 職場内の人的支援体制の構築	
	2. 地域の人的支援体制の構築	
バリアフリー化	1. 施設・設備・道具の設置及び改善の支援	
	2. 作業補助者の配置	
心 身 の 健 康	体の健康	1. 産業保健サービスの実施
		2. 栄養管理の配慮
	心の健康	1. 精神衛生のサービスの実施
		2. 障害理解・啓発の促進
	医療・保健機関との連携	1. 地域病・医院との連携
		2. 地域保健機関との連携
生 活 の 安 定 性	生活関連諸機関との連携	1. 行政機関との連携
		2. 福祉施設との連携
		3. 保護者や後見人との連携
	地域社会への参加	1. 地域福祉センターの設置・運営
		2. スポーツ・文化・芸術活動の支援
	自立	1. 生活自立訓練の実施
		2. 自立生活支援サービスの実施

権(2015) QOLの観点に基づいた障害者雇用促進制度・政策指標・尺度開発に関する研究より引用

Ⅲ. 調査方法

1. 対象者及び手続き

本研究の調査は、障害者雇用促進制度に関して問う質問であるため、障害者雇用促進制度についての知識を有する専門家を主な対象として絞り調査を行った。その対象範囲は、障害者雇用について研究している研究者、現場で障害者にサービスを行う職員などである。具体的な対象者は、地域の就労支援施設で障害者就労や雇用業務を担当している者(社会福祉士、就業支援担当者、障害者ジョブコーチ、職業カウンセラーなど)や企業で障害者雇用の業務を担当している者、職業リハビリテーション学会会員である大学教授、研究員などである。

研究の目的と説明が書かれた質問紙を、調査対象者に郵送またはメールでも回答できるように質問紙をファイリングして送った。また、沖縄障害者職業センターが主催する研修会にて研究の目的を説明した上で、質問紙を配布し、回収した。調査研究については、回答者のプライバシーを十分配慮し、協力に同意した参加者に QOL-EPAT を実施してもらった。調査期間は 2015 年 5 月から 10 月の 6 か月間であった。配布した 150 部のうち、117 部を回収した。

2. 調査票の構成

質問紙は、研究の趣旨を説明する説明文と評価者についてのフェイスシートを添付した。フェイスシートの内容は、年齢、性別、障害の有無、職業、通算教職経験年数とした。質問項目は、QOL-EPAT の「雇用の安定性」、「心身の健康」、「生活の安定性」の 3 領域 12 項目から構成されている。これらの 12 項目は、障害者の専門家が評価するものである。評価方法として、それぞれの項目について評価者は 5 点法で最も適切な数字に丸(o)を付けるようにした。1 が最も低く、5 が最も高い評価とした(表 2)。

表2 QOL-EPAT の質問紙

QOL の観点に基づいた障害者雇用促進制度・政策評価尺度

(Employment Promotion System Assessment Tool for Persons with Disabilities from the Perspective of QOL : QOL-EPAT)

- ① 本尺度は、QOL の観点に基づいて障害者雇用促進制度・政策を評価するために開発された尺度です。
- ② Q1～12 の各項目について、5段階で評価してください。1が最も低く、5が最も高い評価とします。
- ③ Q1～12 の全ての項目を評価してください。QOL-EPAT の項目ごとの概要（定義）を必ず読んでください。
- ④ 領域ごとの点数を算出し、合計点数を算出してください。

合計点数①+②+③ /60

①雇用の安定性

Q1	雇用の機会を 図っているか *雇用の機会とは、障害者が安定した就労及び障害者雇用の促進のための、法律、制度の設置、多様な雇用形態の提供、雇用計画の作成、負担の調整及び規制制度・奨励制度、在宅就業・勤務支援、事業主に対する雇用指導、公的支援機関の設置等を意味する。	5	4	3	2	1
Q2	公平性の確保を 図っているか *公平性の確保とは、障害者の勤務条件の配慮・労務管理上公平性の確保、差別解消に関する体制整備を意味する。	5	4	3	2	1
Q3	障害者の職業能力の向上を 図っているか *職業リハビリテーションを計画し、実施・支援することを意味する。	5	4	3	2	1
Q4	雇用関連諸機関との連携を 図っているか *雇用関連機関との連携とは、障害者の雇用と関連する職業訓練機関、職業斡旋機関、地域障害者雇用支援機関との連携を意味する。	5	4	3	2	1
Q5	支える人材の育成及び配置を 図っているか *支える人材の育成及び配置とは、障害者が職場内、地域内において必要とする支援ができる人的資源の育成及び配置を意味する。	5	4	3	2	1
Q6	バリアフリー化を 図っているか *バリアフリー化とは、障害者雇用を維持及び定着させるための施設・設備・道具の設置及び改善、作業補助者の配置等の支援を意味する。	5	4	3	2	1

①「雇用の安定性」合計点数 /30

②心身の健康

Q7	産業保健サービス実施、栄養管理などの体の健康を 図っているか *障害者の身体健康の維持及び増進を目的として実施する産業保健サービス（保健師、看護師、産業医の配置及び健康診断の実施）、栄養管理の配慮（計画的な食生活・栄養支援）を意味する。	5	4	3	2	1
Q8	精神衛生サービス、障害理解促進などの心の健康を 図っているか *障害者の精神健康の維持及び増進を目的として実施する精神健康サービス（心理カウンセラー、精神保健福祉相談員の配置等）、障害者理解・啓発促進のための支援を意味する。	5	4	3	2	1
Q9	医療・保健機関との連携を 図っているか *医療・保健機関との連携とは、障害者の健康と関連する地域病・医院、地域保健機関との連携を意味する。	5	4	3	2	1

②「心身の健康」合計点数 /15

③生活の安定性

Q10	生活関連諸機関との連携を 図っているか *生活関連諸機関との連携とは、障害者の生活と関連する行政機関、福祉施設、保護者、後見人との連携を意味する。	5	4	3	2	1
Q11	地域社会への参加を 図っているか *障害者生活の安定性を促進させるための、地域福祉センター設置・運営、スポーツ・文化・芸術活動の支援を意味する。	5	4	3	2	1
Q12	生活自立を 図っているか *障害者の生活自立を目的とする生活自立訓練、自立生活支援サービス等の支援を意味する。	5	4	3	2	1

③「生活の安定性」合計点数 /15

3. 分析方法

(1)信頼性の分析

信頼性とは、尺度の測定値の一貫性を指すものである。検証には、内的整合性法を使用した。QOL-EPATの内的整合性にはCronbach's α 係数を使用した。 α 値は0.7以上あれば信頼性は高いと判断される(Cronbach, 1951)。統計解析にはSPSS ver.23を使用した。

(2)妥当性の分析

妥当性とは、尺度の測定値の正しさを指すものである。QOL-EPATの妥当性については、内容的妥当性と構成概念妥当性を検証する。内容的妥当性は、すでに専門家への意見調査により検証されている。構成概念妥当性の検証には、構造方程式モデリング(Structural Equation Modeling: 以下, SEM)を使用した。モデルの適合度はGFI: goodness of fit index, AGFI: adjusted goodness of Fit Index, CFI: comparative fit index, TLI: tucker-Lewis index, RMSEA: root mean square error of approximationの5つの指標を用いて判断する。SEMで分析する場合、どの適合度指標に着目するかは研究者の判断による。通常、RMSEAを含む2つ以上の適合度指標を満たしている場合をよいモデルという(Steiger, 1998)。モデル適合度は以下の通りである。GFI, AGFI, CFI, TLI 指標は、1に近いほど適合度が高いと解釈され、RMSEAは、0.1以上にならないければ適切であると解釈される(豊田, 1998)。また、パラメータの推定は最尤法(Maximum likelihood estimation)を使用した。統計解析にはAmos ver.23を使用した。

IV. 妥当性・信頼性の検証結果

1. 記述統計

本調査は、主に障害者雇用について研究している研究者や現場で障害者にサービスを行う職員などを対象者として調査を行った。調査紙150部を配布し、117人(78%)から回答を得た。そのうち、欠損値(=5)を除いた112人を分析対象とした。回答者のうち、障害のある人は14人(12.0%)であり、ほとんどの回答者が障害はないと回答した。また、職業においては、障害者雇用にかかわる現場で働く職員が88人(78.6%)と最も多かった。具体的には、地域の就労支援施設(就労移行支援事業所、就労継続A型、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター)で障害者就労や雇用業務を担当している社会福祉士、就業支援担当者、障害者ジョブコーチ、職業カウンセラーだった。また、一般企業で障害者雇用の業務を担当している者、職業リハビリテーション学会会員である大学教授、研究員も含まれた。その他と回答した人の職業は、福祉施設職員、障害者自立支援団体職員だった。

表3 データの記述統計

属性(n=112)		平均値	標準偏差 または母集団(%)
年齢		37	9.7
性別	男性	59	52.7
	女性	53	47.3
障害の有無	有	13	11.6
	無	99	88.4
職業	研究者	8	7.1
	現場職員	88	78.6
	その他	16	14.3
職業経験年数		5.8	7.4

2. 信頼性の検証結果 (内的整合性 : Cronbach's α 係数)

上述したように、QOL-EPATの信頼性を分析するために、SPSSを用いて各領域と項目に対するCronbach's α 係数を求めた。一般的に、 α 係数 $>.70$ であれば、尺度の信頼性が高い(=内的整合性が高い)と判断される(Cronbach, 1951)。

データ(n=112)を用いて分析した結果、領域のCronbach's α 係数は「雇用の安定性」の領域で0.889、「心身の健康」領域で0.730、「生活の安定性」で領域0.799となり、全ての領域では0.915となった。このことから、各領域と項目の信頼性が検証された。

表4 QOL-EPATの信頼性の検証結果

項目	平均値	標準偏差	項目が削除された場合 のCronbach's α 係数	Cronbach's α 係数
雇用の安定性				0.889
Q1	3.21	0.96	0.866	
Q2	3.23	1.07	0.879	
Q3	3.48	1.01	0.867	
Q4	3.44	1.12	0.864	
Q5	3.21	1.06	0.865	
Q6	3.05	1.14	0.876	
心身の健康				0.730
Q7	2.80	0.95	0.788	
Q8	2.98	1.06	0.534	
Q9	3.26	1.13	0.554	
生活の安定性				0.799
Q10	3.44	1.09	0.781	
Q11	3.02	1.07	0.764	
Q12	3.15	1.08	0.623	
Q1~Q12				0.915

Q1-Q12, (1=minimum, 5=maximum) $\alpha>.700$

3. 妥当性の検証結果 (構成概念的妥当性：構造方程式モデリング)

構成概念妥当性を分析するために、パス図を使って図1のような仮定モデルを設定した。仮定モデルの妥当性を分析するために Amos を使った SEM 分析を行った。

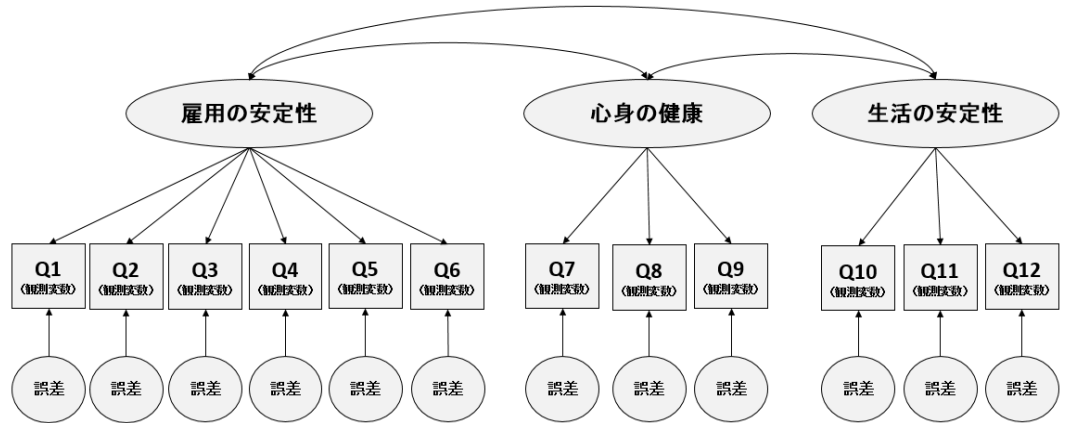


図1 構成概念妥当性分析のための仮定モデル

分析の結果、適合度は GFI=0.898, AGFI=0.844, CFI=0.961, TLI=0.949, RMSEA=0.069 であった。適合度指標の結果が適合度の範囲内であるため、妥当性が確認された(図2)。

すなわち、「雇用の安定性」は、1) 雇用の機会、2) 公平性の確保、3) 障害者の職業能力、4) 雇用観点諸機関との連携、5) 支える人材の育成及び配置、6) バリアフリー化により説明されるといえる。「心身の健康」は、7) 体の健康、8) 心の健康、9) 医療・保健機関との連携により説明されるといえる。「生活の安定性」は 10) 生活関連諸機関との連携、11) 地域社会への参加、12) 自立により説明されるといえる。

n=112, $\chi^2=78.137$, df=51, p=0.009

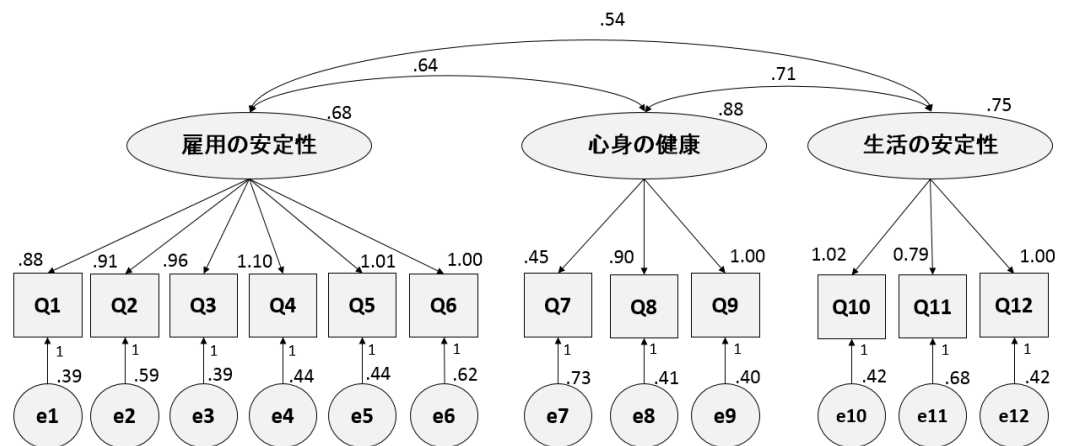


図2 QOL-EPAT の妥当性の検証結果

V. 考察

権(2015)は、QOLの観点から日本の障害者雇用促進制度・政策評価するためのQOL-EPATを開発した。本研究では、開発されたQOL-EPAT(試案)の信頼性及び妥当性の検証のために専門家を対象とした調査を行った。調査のデータを用いて信頼性及び妥当性を検証し、QOL-EPATを完成した。尺度の信頼性と妥当性を分析した結果は、以下の通りである。

第一に、尺度の内容的妥当性の検証結果である。完成した尺度(試案)の言葉や各領域及び項目の設定について日本の障害者雇用の専門家等の計15名から意見や助言を得て、内容的妥当性を検証した。意見や助言に基づいて、QOL-EPAT(試案)の領域、項目の内容の修正・削除を行った。内容的妥当性の検証により、「雇用の安定性(6項目)」、「心身の健康(3項目)」、「生活の安定性(3項目)」の3領域、12項目を完成した(権, 2015)。

第二に、尺度の信頼性(内的整合性)の検証結果である。検証には、各領域と項目のCronbach's α 係数を求めた。Cronbach's α 係数については、一般的に、 α 係数は0.70以上であれば、尺度の信頼性が高い(=内的整合性が高い)と判断される(小塩, 2014)。領域のCronbach's α 係数は、「雇用の安定性」で0.889、「心身の健康」で0.730、「生活の安定性」で0.799となり、各領域における α 係数はすべて0.7以上であった。すなわち、QOL-EPATは、QOLの観点に基づいた日本の障害者雇用促進制度政策を評価する尺度として十分な信頼性を有していることが明らかになった。

第三に、尺度の構成概念妥当性の検証結果である。検証には、因子分析モデルを仮定し、分析を行った。本分析では、GFI, AGFI, CFI, TLI, RMSEA指標を用いて研究者が作ったモデルの適合度を検証した。一般的に、モデルの適合度を示すGFI, AGFI, CFI, TLI係数は、1に近いほど適合度が高いと解釈され、RMSEAは、0.1以上にならないければ適切であると解釈される(豊田, 1998)。今回のデータを用いた因子分析モデルの分析結果、モデルの適合度は、GFI=0.898, AGFI=0.844, CFI=0.961, TLI=0.949, RMSEA=0.069であった。モデルの適合度を示す指標が、すべて許容水準であることが明らかになった。すなわち、日本におけるQOLの観点に基づいた障害者雇用促進制度・政策評価尺度として「雇用の安定性(6項目)」、「心身の健康(3項目)」、「生活の安定性(3項目)」を領域とした構成概念妥当性が検証された。

以上の分析を踏まえて、QOL-EPATは、信頼性(内的整合性)及び妥当性(内容的妥当性、構成概念妥当性)が検証された。検証により、QOL-EPATは日本の障害者雇用促進制度・政策の評価分析のためのツールとして活用することが可能になった。

謝辞

本研究を進める上で、障害者の雇用促進に係る専門家調査に関する質問紙調査に多大なご協力をいただきました。障害者雇用を専門として研究している皆様、障害者の就労支援に携わる皆様、障害者雇用を進める事業主の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

本研究はJSPS特別研究員奨励費(課題番号: 26・9924)の助成を受けたものです。

文献

- 1) 小塩真司(2014) SPSS と Amos による心理・調査データ解析(因子分析・共分散構造分析まで), 東京図書.
- 2) 權偕珍(2015) QOL の観点に基づいた障害者雇用促進制度・政策の評価指標・尺度の開発に関する研究. *Asian Journal of Human Services*, 8, 107-119.
- 3) Chronbach L(1951) Co-efficient alpha and the internal structure of tests. *Psychometrika. Psychimetrika*, 16(3), 297-334.
- 4) 清水裕子(2005) 測定における妥当性の理解のために一言語テストの基本概念として一. *立命館言語文化研究*, 16(4), 241-254.
- 5) 村上宣寛(2006) 心理尺度のつくり方. 北大路書房.
- 6) Steiger JH(1998) A note on multiple sample extensions of the RMSEA fit index. *Structural Equation Modeling. A Multidisciplinary Journal*, 5(4), 411-419.
- 7) 豊田秀樹(1988) 共分散構造分析(入門編)ー構造方程式モデリー. 朝倉書店.
- 8) 豊田秀樹(2007) 共分散構造分析(Amos 編)ー構造方程式モデリー. 東京図書.
- 9) 中西仁美・土井健司, 他 3 名(2005) イギリスの政策評価における QOL インディケータの役割と我が国への示唆. *土木学会論文集*, 793, 73-83.
- 10) 韓昌完(2013) 2013 年 3 月 20 日, QOL の観点に基づいた障害者雇用促進制度に関する勉強会資料.

ORIGINAL ARTICLE

The Verification of the Reliability and Validity of Employment Promotion Tool for Persons with Disabilities in the Aspect of the Quality of Life(QOL-EPAT)

Haejin KWON¹⁾²⁾ Satoko AMEKU³⁾

- 1) Graduate School of Economics, Ritsumeikan University
- 2) Research Fellowship of the Japan Society for the Promotion of Science
- 3) Graduate School of Education, University of the Ryukyus

ABSTRACT

Kwon (2015) was developed Employment Promotion Tool for Persons with Disabilities in the Aspect of the Quality of Life(QOL-EPAT). But its reliability and validity have not been verified yet. Therefore, this study aimed to verify the reliability, content validity and construct validity of QOL-EPAT. This study was conducted with a disability employment specialists. Period May to October 2015, six months, was distributed to collect the questionnaire. Reliability of QOL-EPAT was estimated using the internal consistency method; both the coefficient of Cronbach's α were over 0.7. Construct Validity; Construct validity was verified using structural equation modeling (SEM). Goodness of fit index (GFI), Adjusted goodness of fit index (AGFI), comparative fit index (CFI), tucker-Lewis index (TLI) and root mean square error of approximation (RMSEA) are the suitability indices of SEM. As the result, GFI=0.898; AGFI=0.844; CFI=0.961; TLI=0.949 and RMSEA=0.069. The validity was verified because the values of GFI, AGFI, CFI, TLI and RMSEA were within the goodness-of-fit range. Thus, impaired employs promoters of Japan also provided which allows for analysis of the policy by using a validated scale.

Received
December 16, 2015

<Key-words>

QOL, Employment Promotion Tool for Persons with Disabilities, Reliability and Validity

Accepted
January 13, 2016

kkhhjj51@naver.com (Haejin KWON)

Total Rehabilitation Research, 2016, 3:46-56. © 2016 Asian Society of Human Services

Published
February 28, 2016

Total Rehabilitation Research

VOL.3 February 2016

CONTENTS

ORIGINAL ARTICLES

Psychological Effects of a Calm-Down Space on the Physiological Stress Reaction of Children with Disabilities : Comparison of Children with Severe Motor and Intellectual Disabilities and Children with Mental Retardation	Tomonori KARITA.	1
Key Factors that Changed the Attitudes of Students with Hearing Impairments in Higher Education Institutions to Receiving Assistance.....	Takuo SUGINAKA, et al.	15
Current Status and Issues of Employment persons with disabilities in Corporate : Focusing Fact-finding Survey of Employment persons with disabilities in Corporate.....	Moonjung KIM.	28
The Verification of the Reliability and Validity of Employment Promotion Tool for Persons with Disabilities in the Aspect of the Quality of Life (QOL-EPAT)	Haejin KWON, et al.	46
Development of the Scale to Cooperative Relationship Assessment Tool for Inclusive Education : Centering on the Content Validity Verification.....	Haruna TERUYA, et al.	57
Current Situation and Priority Issues of Inclusive Education System in Okinawa : Evaluation and Analysis Using the IEAT (Inclusive Education Assessment Tool).....	Natsuki YANO, et al.	70
Development of the IN-Child (Inclusive Needs Child) Record.....	Changwan HAN, et al.	84

REVIEW ARTICLE

A Study on the International Trends and Prospects of Physical Activity and Health Promotion in Active Aging.....	Minji KIM.	100
---	-------------------	-----

SHORT PAPER

Effects of Exercise Interventions on Balance Function in Frail Older Adults : A Literature Review.....	Chaeyoon CHO, et al.	115
---	-----------------------------	-----

Published by
Asian Society of Human Services
Okinawa, Japan